

1 PLAN(目的・概要)

一般事務事業

政策名	交流・環境	25年度事業・施策評価結果			責任者	総務部 広報担当課長	
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成	成果	コスト				
事務事業名	名古屋港のPR				連絡先	052-654-7947	
目的	対象(誰・何を)	県民市民、一般来港者、港湾関係者				連携課	行政管理課
目的	意図(どういう状態にしたいか)	名古屋港の取組、施策、状況、特徴や変化について広く関心や理解を得られる状態にする				事業期間	昭和26年度～継続
概要	練習帆船・汽船等の誘致・一般公開を実施するとともに、「海の日名古屋みなと祭」開催に協力します。また、印刷物・広報番組・広報紙の作成・製作、ホームページの運営を行い、港務艇による港内見学「みなと体験ツアー」及びマスコットキャラクターによるPRを実施します。				根拠法令等	海の日名古屋みなと祭協賛会規約	
26年度の実施予定	帆船「海王丸」、汽船「銀河丸」「青雲丸」「大成丸」の誘致・一般公開の実施、「海の日名古屋みなと祭」開催への協力、印刷物「PORT OF NAGOYA」「要覧」「ようこそなごやこうへ」「わたしたちの名古屋港」の作成。広報番組「What's 名古屋港」・広報紙「広報なごや港」の製作、ホームページの運営、「みなと体験ツアー」の実施、マスコットキャラクターによるPRを実施します。				実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
					関連シート		

2 DO(実施)

26年度に実施した内容・結果	練習帆船・汽船、南極観測船の誘致・一般公開(5隻)。海の日名古屋みなと祭の開催(7/21)。印刷物「PORT OF NAGOYA」「要覧」「ようこそなごやこうへ」「わたしたちの名古屋港」の発行。広報番組「What's 名古屋港」・広報紙「広報なごや港」の製作。ホームページの運営(facebookの開設を含む。),「みなと体験ツアー」の実施(17回)、マスコットキャラクターによるPRを実施(イベント参加16回)しました。					
コスト	単位	24年度	25年度	26年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	39,538	38,546	40,737	39,607	南極観測船寄港分の事業費、人員費が増加しました。
人件費	千円	34,864	35,040	36,117	35,340	
合計	千円	74,402	73,586	76,854	74,947	

3 CHECK(検証)

指標名	24年度	25年度	26年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
船舶一般公開見学者数(人) (単年度管理型)	目標	-	-	7,700	7,700	目標値は、過去5年間の合計値(38,576人)の平均 38,576人÷5年間=7,700人/年間	季節、天候、寄港隻数
	実績	7,131	7,252	10,632			
事業進捗状況(26年度)				目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る		
ホームページのアクセス件数(件) (単年度管理型)	目標	-	-	600,000	600,000	名古屋港への関心を測る指標としてホームページトップページのアクセス件数を設定。目標値は過去実績を踏まえ着実な向上を目指して設定した。	通信環境、端末の変化、情報提供媒体の変化
	実績	503,086	563,582	536,069			
事業進捗状況(26年度)				目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る		
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	船舶一般公開見学者数は、年度中に急きよ、南極観測船の寄港が決定したため目標を大きく上回ることができた(ただし、一般公開日数は台風接近のため一日半の予定が半日のみとなった)。ホームページについては情報発信量(更新を含む)に相関したアクセス件数の若干の落ち込みがあったと考えられる。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	本組が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ ・港のPRは港湾管理者が主体的に取り組むべき事業です。					
有効性	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○ ・約6倍の「みなと体験ツアー」の平均当選倍率にも見られるように、事前告知の手法によっては名古屋港への関心を高く引き出すことができます。今後も潜在的なニーズを掘り起こしながら事業を推進していく必要があります。					
効率性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○ ・名古屋港への関心や理解は施策達成に不可欠となる前提条件といえるものであります。					
	期待どおりの成果が得られているか?	○ ・指標的に概ね期待どおりの成果を得ていると思われます。					
	最小のコストとなっているか?	○ ・毎年の予算精査によるコスト削減を通して最小のコストでの事業実施に努めております。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	27年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	・利用者ニーズを踏まえ事業の有効性・効率性に留意しつつ、引き続き名古屋港のPRに努めるため。
課題	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
27年度以降の取組			
港湾を取り巻く環境は経済と連動して変化するものであり、PRの基礎となる情報が古くなっていないか確認し続ける必要があります。		環境変化に常に目を配りながら、今後も情報の更新に努めていきます。	